

静岡県議会議長賞

にじの橋をわたったエル

小山町立須走小学校

四年 新保 葵 依

夏休みに入る前、お母さんが

「今年の夏休みはお出かけは無理だね。」

と、残念そうに言いました。わたしは、

(水ぞく館、行けないんだ。いやだな。)

と、思ってえん側を見ました。十四才になったラブラドールのエルがつかれてねていました。つゆ明けからの暑さでバテているのか、このごろ食よくがなくて、後足が弱ってさん歩にも行けなくなりました。去年の一月、口くうがんの大手じゅつをして、上手にフードを食べられなくて、そのせいかと思いましたが、でも、そうではありませんでした。夏休みに入ったある夜、大好きなじゃがいもを食べた後、もどしてしまい、いえきも出ました。

「エル、きたないよ。」

と、わたしは笑って言いました。

「エル、苦しいね、出していいよ。」

お母さんはそう言ってゴム手ぶくろをして、ペーパーとアルコールでふいていました。

「エル、にじの橋をわたるかもしれない。」

と、目を真っ赤にして言って、それから何も言わずにエルの顔や足をふきました。週末お父さんが転きん先から様子を見に来て、

「エル、父さんの分あげるよ。」

と言ってチーズケーキをあげました。

「今度、夏休みに帰るから待ってて。」

と言って行きました。エルは安心したのか、次の日、急に具合が悪くなって病院に行きました。何もしないで院長が静かに

「人間の物でもいいので、好きな物あげてください。馬さしは力つきますよ。」

と、言いました。

「さい後の一しゅんまでわたしが見ます。」

とお母さんが言いました。わたしには意味が分かりません。次の日の夕方、今まで聞いたこともないなき声で、わたしたちをよびました。近くに行くと、なくのをやめてぐったりしてました。わたしは九時なのでねました。

朝起きたら目を赤くして泣きながらお母さんが悲しい声で言いました。

「エル、にじの橋わたったよ。」

わたしはたくさんみだを流しました。

次の日、おそう式をしました。火そう場のえんとつからけむ

りが空に行って消えました。

(犬なか間の所に行けてよかったね。)

そう思って手を合わせました。

「この一しゅんまでお世話する事が動物をあいする事で、命を預かったせきにんだよ。」

と、お母さんは言いました。わたしは、気分でかわいがったり、のら犬やねこ、野生動物にえさをあげることが動物あいごとと思いましたが、ペットの一生をお世話して見送る事が本当の動物あいごとと思いました。この事をエルが命をかけてわたしに教えてくれました。悲しいけど、今知ってよかったです。

「ありがとう、エル。」

